



三菱総合研究所が実施する乳がんアンケートに協力

高濃度乳房（デンスブレスト）の認知度は1割程度に留まることが判明

株式会社 Lily MedTech（本社；東京都文京区、代表取締役：東志保）は、株式会社三菱総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：森崎孝、以下 MRI）が2020年4月に20~60代女性1,000人を対象として実施した乳がん検診の動向や、乳がんのリスクや治療への認知度に関するアンケート調査に協力致しました。

1. 検診に関する部分に着目した調査結果のポイント

- ① 過去2年間の乳がん検診受診率は40代がピークで、50代、60代と年齢が上がるにつれて徐々に低下する。（図1）
- ② 30代でも45%は過去2年間に乳がん検診を受診しており、初めて乳がん検診を受けたきっかけは、メディアを通じて乳がん検診の重要性、有名人の乳がん罹患を知ったことが28%で最も多いが、次いで、結婚・出産などのライフイベントがきっかけとなっているケースが20%と多い。（図2）
- ③ 高濃度乳房（デンスブレスト）の認知度は、全体で10.1%、高濃度乳房の割合が高い20代~40代では8.1%に留まっている。（図3）
- ④ より美しい乳房のカタチを保つためのチェックサービスとセットであれば、2年に1回以上の頻度で検診を受けてみたいと考える人が、過去2年間に乳がん検診を受けていない人の60%、これまで一度も乳がん検診を受けたことの無い人の40%にのぼる。（図4）

図1 過去2年間の各世代の乳がん検診非受診率

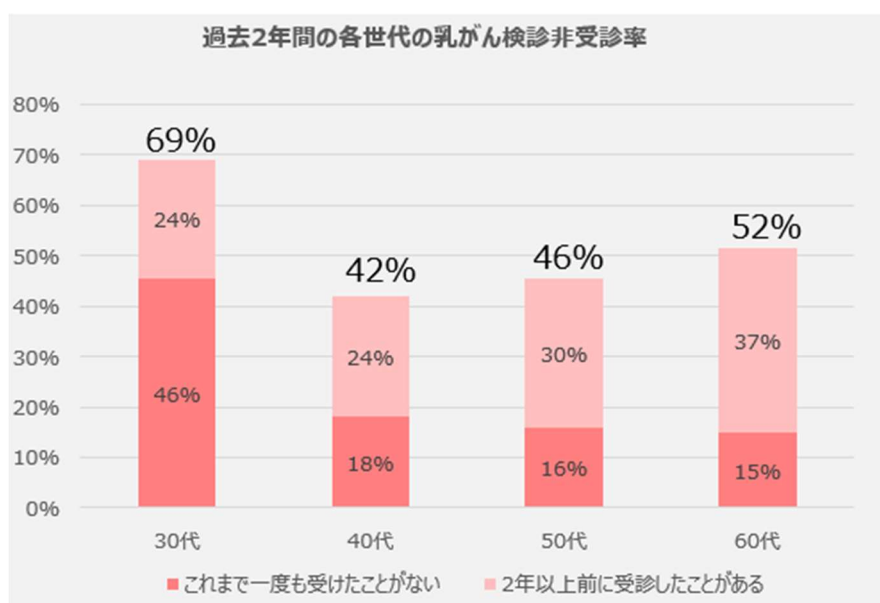




図2 30代女性が初めて乳がん検査を受けたきっかけ

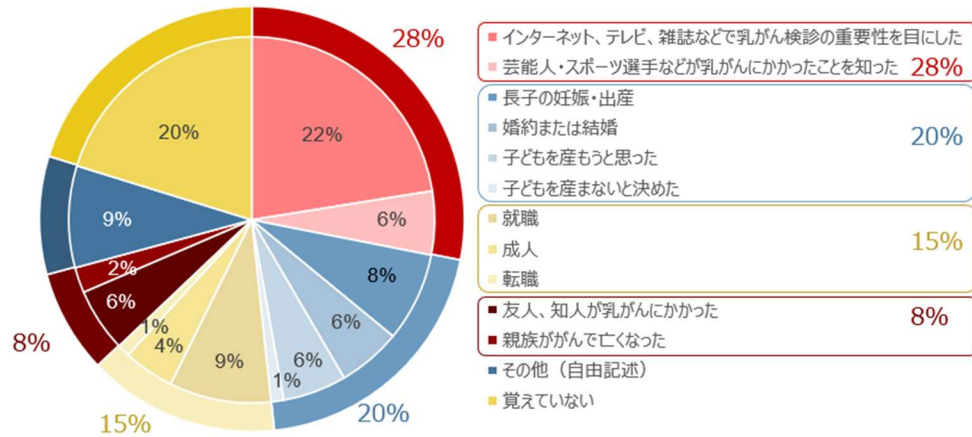


図3 20代～40代女性の高濃度乳房に対する認知度

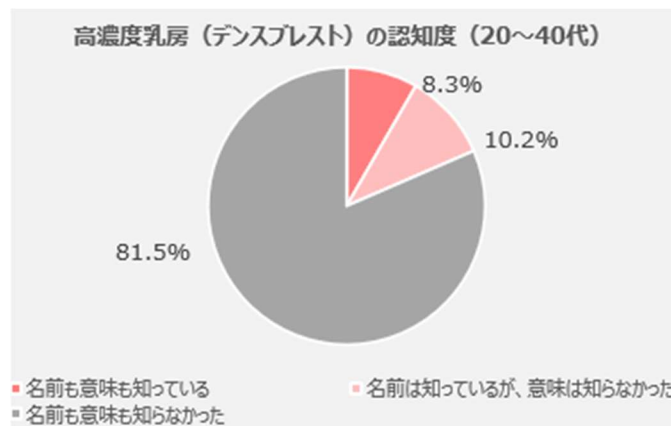
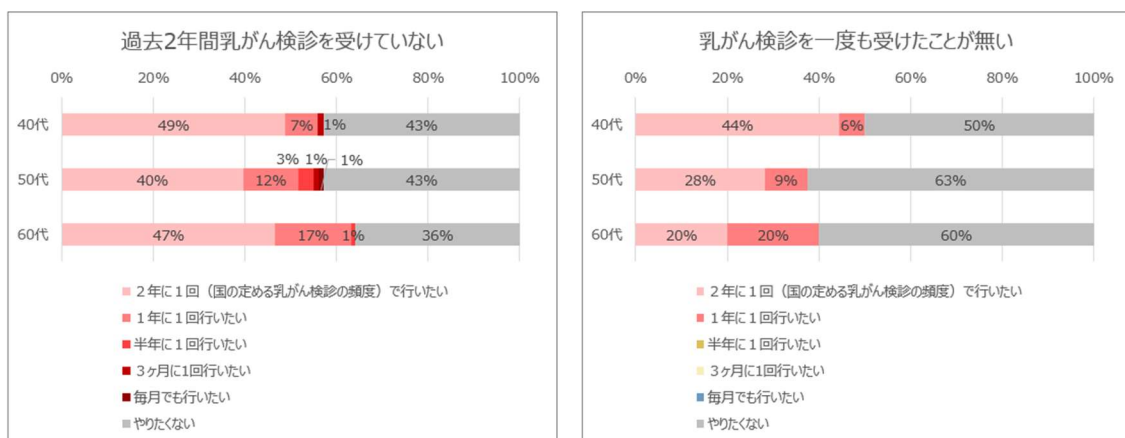
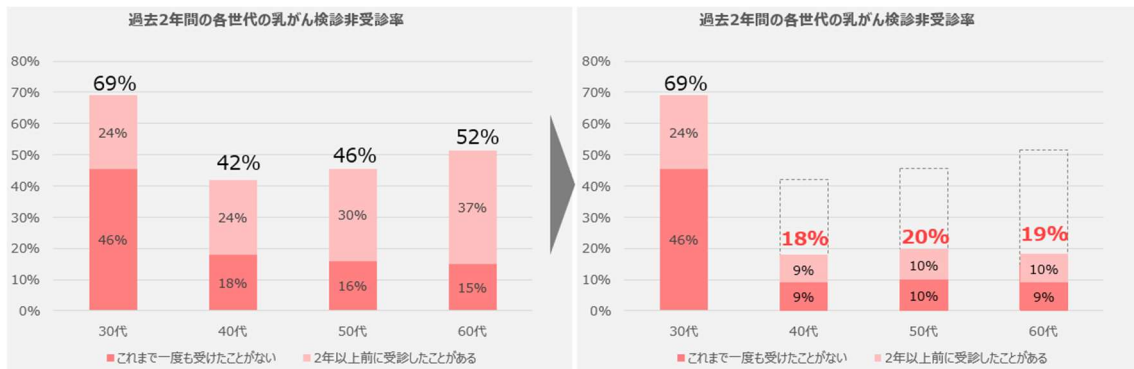


図4 より美しい乳房のカタチを保つためのチェックサービスとセットであれば、検診を受けてみたいと考える人の割合





1. 調査概要

アンケート名：「乳がん検診等に関する mif（*）アンケート調査」

- ① 回答者数：1,000 名（年齢：20~60 代の女性、対象地域：全国）
- ② 回答者セグメント：年齢：5 セグメント（20 代／30 代／40 代／50 代／60 代）、職業：2 セグメント（会社員・派遣社員／主婦・パート・アルバイト）をクロスした計 10 セグメントで 100 名ずつ
- ③ 調査方法：全国 Web アンケート（回答者は mif ベーシック調査パネル他で募集）
- ④ 調査実施日：2020 年 4 月 17 日～4 月 21 日
- ⑤ 調査内容：乳がん検診の受診履歴、精密検査の必要が発覚した際の家族や職場への相談意向、高濃度乳房や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下など関連知識、教育機会の十分性に関する意識の把握
- ⑥ 実施主体：MRI（協力：ワコール、Lily MedTech）
* 生活者市場予測システム（mif）：三菱総合研究所の運営する、生活者 30,000 人、シニア 15,000 人を対象とした、2,000 問からなる国内最大級のアンケートパネルおよび調査システム。

2. 背景・経緯

Lily MedTech は、女性に優しい乳がん検診の実現を目指す、女性起業家による東京大学発のスタートアップ企業です。

現在行われている乳がん検診には、圧迫による痛みや被ばくのリスク、操作者の技術への依存といった課題がありますが、このような課題を解決可能な、超音波を使用した乳房用画像診断装置を開発しています。

乳がんは他のがんと異なり、若年層の罹患率が高く、子育てや仕事で忙しい世代の女性の活躍や、そのご家族の生活にも大きな影響を与えます。今回 MRI のアンケートに協力し、回答を得ることで、当社が目標とする乳がん検診受診率の向上に対するヒントを得ることができました。

今回のアンケート結果を踏まえ、Lily MedTech では、若年層の方にも、被ばく等のリスクなく受けていただける、精度の高い乳がん検診の実現を目指し、開発を進めて参



ります。

同時に、デンスブレストや、乳がん検診の特長、乳がんと診断された場合の QOL (Quality of Life、生活の質) への影響について、情報を発信し、乳がんに罹患しやすい世代の方に対して啓発活動を行ってまいります。

本件に関するお問合せ

株式会社 Lily MedTech

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学アントレプレナープラザ 701

広報 和田

電話：03-6240-0941 / メールアドレス：pr@lilymedtech.com

以上